

『夏』 作：ポチ子

【SE…セミの音】

夏 「……（不快そうに唸る）」

【SE…セミの音】

夏 「だああああ!! 熱い!!」

母 「しよがないでしょー、エアコン壊れちゃったんだから。」

夏 「ぬあああ、許せない!! こんな真夏日に壊れるエアコンがある? うー……。溶けちゃう。」

母 「たまには我慢しなさい。お母さんが小さい頃はエアコンなんてなかったんだからね。」

夏 「お母さんの小さい頃は関係ないでしょ。今は現代なの、21世紀なの。こんなうちわ一つじゃ、私の心は涼まないの!! 大体、扇風機すらもないなんてことある?」

母 「だって、エアコンがあったら要らないでしょ。捨てちゃったのよ。」

『夏』 作：ポチ子

夏 「エアコンつけながら、扇風機つけると電気代節約なるんだっ

てよ。」

母 「もう捨てちゃったから、今更言われたってねー。しばらくはうちわで扇いでなさい。」

夏 「うちわなんて、熱風しか運んでこないじゃん！ぬうううう、今なら氷の風呂にに何時間でも浸かれそう・・・」

秋 「氷に浸かる世界記録は1時間53分らしいぜ、姉ちゃん。」

母 「あら、お帰りなさい。早かったのね。」

秋 「ただいま。外暑すぎて、祭りどころじゃなくて帰ってきました。」

母 「祭りの人も大変よねー。こんな熱い中、神輿担ぐなんて。」

【SE・袋のこすれる音】

夏 「あ、秋ずるい!!アイス、私も食べたい!!」

秋 「そういうと思って、姉ちゃんの分も買ってきた。ガリガリ君でいいでしょ。」

夏 「ありがとー!!さすが我が弟。やっぱり、持つべきものは優秀な弟だね。」

母 「あんたも、秋を見習って勉強してほしいものだわ。あんた、夏休みの課題終わったの？」

夏 「う……。こんな暑い部屋じゃ、勉強したくてもできないよ。」

秋 「夏休み始まってからもう2週間だけど。」

夏 「うー……。うるさい!!自分が終わってるからって調子乗るなよ。」

秋 「俺は姉ちゃんと違って計画的だから。」

母 「ほんとと同じように生んだつもりなのに、なんでこんなに違うのかしらね。」

秋 「母さんの腹の中に置いてったんじゃない？」

夏 「ぐぬぬ……。二人して私を責めて……」

秋 「自業自得だろ？」

母 「ほら、それ食べたら、さっさと課題やりなさい。」

夏 「もう、やればいいんですよ!やれば!」

— 終わり —